第Ⅳ部

防衛力を構成する中心的な要素など

第1章
訓練・演習に関する諸施策

第2章
人的基盤・知的基盤の強化

第3章
衛生機能の強化

第4章
防衛装備・技術に関する諸施策

第5章
情報機能の強化

第6章
地域社会や環境との共生に関する取組

第1章 訓練・演習に関する諸施策

自衛隊がわが国防衛の任務を果たすためには、平素から各隊員及び各部隊が常に高い練度を維持し、向上させることが必須となる。そうした練度に支えられてこそ、他国からの侵略を思いとどまらせる抑止力としての機能を果たすものとなり、かつ、侵略が生起した場合の対処力を確保することができる。そのため、統合訓練や陸・海・空自衛隊による各種訓練の実施を通じ、防衛力の維持・向上を日々図っている。

また、日米同盟の抑止力・対処力の強化を図るため、各自衛隊は、各軍種間での共同訓練や日米共同統合演習を着実に実施するとともに、その内容を年々深化させている。

さらに、自衛隊は、「自由で開かれたインド太平洋」というビジョンに基づき、多角的・多層的な安全保障協力を戦略的に推進するため、広くインド太平洋地域における同盟国、友好国との共同訓練・演習に積極的に取り組んでいる。そうした訓練・演習を通じ、わが国の安全保障と密接な関係を有するインド太平洋地域において諸外国とのパートナーシップの強化を図るとともに、一国のみでは対応が困難なグローバルな安全保障上の課題や不安定要因への対応に向けた連携を深めている。

第1節 訓練・演習に関する取組

1 わが国の抑止力・対処力強化のための訓練

防衛省・自衛隊は、様々なハイレベルの共同訓練・演習を積極的に実施し、更なる抑止力・対処力の獲得に努めている。

参照 図表Ⅳ-1-1-1（わが国の実効的な抑止力・対処力強化のための主要訓練）

1 わが国自身の防衛体制の強化に資する主要訓練

(1) 自衛隊の統合訓練

有事の際に防衛力を最も効果的に発揮するためには、平素から、陸・海・空自衛隊の統合運用について訓練を積み重ねることにより、自衛隊の抑止力・対処力がシームレスに遺憾なく発揮されるように準備しておくことが重要である。

このため、自衛隊は、1979年以来、統合運用を演練する自衛隊統合演習（実動演習）及び自衛隊統合演習（指揮所演習）をおおむね毎年交互に実施している。

【令和３年度自衛隊統合演習】

2021年11月、自衛隊は令和３年度自衛隊統合演習（実動演習）を実施した。多次元統合防衛力の構築に取り組んでいる中、本演習においては、指揮所

鬼木副大臣の自衛隊統合演習の視察状況

図表Ⅳ-1-1-1　わが国の実効的な抑止力・対処力強化のための主要訓練

活動と実動訓練を連接しつつ、宇宙状況監視にかかる連携、サイバー攻撃対処、統合電子戦訓練といった新たな領域にかかる訓練や総合ミサイル防空などの訓練を実施し、領域横断作戦を含む自衛隊の統合運用能力の維持・向上を図った。また、本演習には、陸・海・空自衛隊から約3万人が参加するとともに、自衛隊統合演習として初めて一部の訓練に米軍が参加し、日米の連携要領についても維持・強化を図った。本訓練は、地域の平和と安定に積極的に貢献するための自衛隊の態勢と能力を維持・強化するだけでなく、わが国の防衛にかかる堅固な意思を示すものでもあった。

(2) 各自衛隊の訓練

統合による防衛力が十分に発揮される大前提は、各自衛隊の高い練度である。そのため、各自衛隊においては、隊員個々の訓練と、部隊の組織的な訓練を継続的に実施し、それが、精強な自衛隊の基礎となっている。

ア　陸上自衛隊

陸自は、普通科（歩兵）、特科（砲兵）、機甲科（戦車・偵察）、施設科（工兵）などの職種ごとに部隊の

動画：03JX
URL：https://twitter.com/jointstaffpa/status/1468135431103737857

動画：令和3年度陸上自衛隊演習
URL：https://youtu.be/iQLdZdFVUwA

行動を訓練するとともに、他の職種部隊と協同した諸職種協同訓練を各級部隊が行っている。

例えば、機動師団・旅団が全国に展開する機動展開訓練や方面隊規模での実動演習を実施し、各種事態などへの対処能力の向上を図っている。

また、国内外における米空軍機などからの空挺降下訓練、水陸両用作戦にかかる訓練、中SAM/SSM部隊の実射訓練などを実施し、統合・共同による領域横断作戦に必要な各種戦術技量の向上を図っている。

【陸上自衛隊演習】

陸自は、2021年9月から11月にかけて、全国約160ヵ所の駐屯地や演習場において、陸上自衛隊演習を実施した。本演習は、1993年以来約30年ぶりに陸自のほぼ全ての部隊、人員約10万人が参加した実動訓練であり、じ後の作戦のすう勢を決する作戦準備を焦点として、駐・分屯地ごとに防衛出動のために必要な準備を行う「出動準備訓練」、陸海空自衛隊の輸送力に加え、米軍や民間の輸送力も活用して方面区をまたいだ部隊の機動展開を行う「機動展開訓練」、全国規模での装備品・補給品の輸送を行う「兵站・衛生訓練」、展開先に通信科部隊を先行展開させて逐次システム通信を拡充する「システム通信訓練」、予備自衛官を主体とした軽普通科連隊の編成などを行う「出動整備訓練」を実施し、任務遂行能力と即応性及び運用の実効性を向上するととも

VOICE 陸上自衛隊演習に参加した隊員の声

陸上自衛隊第2後方支援連隊（北海道旭川市）
連隊長　1等陸佐　　菊地（きくち）　康治（こうじ）

第2後方支援連隊は、2021年9月から10月の約40日間にわたり、約30年ぶりに実施された陸上自衛隊演習に参加しました。連隊は所属する第2師団の一部として、所在する北海道から約2,000km離れた大分県にある日出生台演習場まで、自隊の車両によるほか、海上自衛隊の輸送艦、フェリーなどの民間輸送手段を組み合わせて機動展開し、同演習場に到着してからは、新領域の脅威である敵の衛星からの監視活動にも留意した後方支援活動を実動により実施しました。本演習は、これまで培ってきた訓練の成果、磨いてきた技術を試す絶好の機会となり、部隊として多くの教訓を得るとともに、何よりも参加した隊員は大きな自信を得ることができました。私が感じている主要な成果は、①師団が全力で全国的な機動展開を実施した後、作戦を実施する際の兵站・衛生の規模を体感して多くの教訓を得たこと、②運用の実効性を向上させるために関係省庁・民間企業との連携や法令の適用などに関し調整すべき点を明らかにできたこと、③参加した隊員の任務に対する意識をさらに高揚させることができたことです。

兵站・衛生等作戦基盤の確立を重視した本演習に参加し、後方支援連隊の任務を完遂することで、領域横断作戦を含む陸上自衛隊の運用の実効性向上に寄与できたと感じております。

陸上幕僚長に現地における部隊の活動状況を報告する筆者（左から2番目）

機動展開後の後方支援任務に従事する隊員

に、抑止力・対処力を強化した。

イ　海上自衛隊

海自は、要員の交代や艦艇の検査、修理の時期を見込んだ一定期間を周期として、これを数期に分け、段階的に練度を向上させる訓練方式をとっている。この方式での訓練の初期段階では、戦闘力の基本単位である艦艇や航空機ごとの練度の向上に伴って、応用的な部隊訓練へと移行するとともに、艦艇相互、艦艇と航空機の間で連携した訓練を実施している。例えば、海自は、1955年以来実施している全国の部隊が実動する海上自衛隊演習（実動演習）を実施し、即応能力の向上を図っている。また、硫黄島における実機雷処分訓練、日向灘・陸奥湾・伊勢湾における機雷戦訓練、そしてそれぞれにおいて日米共同の掃海特別訓練を実施し、各種戦術技量の向上を図っている。

さらに、米海軍の協力を得て良好な国外の訓練基盤を活用し、護衛艦の米国派遣訓練、米国派遣訓練（潜水艦）、グアム島方面派遣訓練（敷設艦）、米国派遣訓練（航空機）を実施し、各種戦術技量の向上を図っている。

ウ　航空自衛隊

空自は、戦闘機、レーダー、地対空誘導弾などの先端技術の装備を駆使するため、訓練の初期段階では個人の専門的な知識技能を段階的に引き上げることを重視しつつ、戦闘機部隊、航空警戒管制部隊、地対空誘導弾部隊などの部隊ごとに訓練を実施している。この際、隊員と航空機などの装備を総合的に機能発揮させることを目指しており、練度が向上するに従って、これら部隊間の連携要領の訓練を行い、さらに、これに航空輸送部隊や航空救難部隊などを加えた総合的な訓練を実施している。

空自ペトリオットによる訓練弾発射

例えば、空自は、全国の部隊が実動する航空総隊総合訓練（実動訓練）や各種機能別訓練を実施するとともに、PAC-3機動展開訓練、国外運航訓練を実施し、機動展開能力、即応能力の向上を図っている。また、良好な国外の訓練基盤を活用した高射部隊によるペトリオットの実射訓練を実施し、防空戦闘能力を強化している。

さらに、米国高等空輸戦術訓練センターを活用し、輸送機部隊の任務遂行能力の向上を図っている。

2　日米同盟の抑止力・対処力の強化に資する主要訓練

日米同盟はわが国の安全保障にとって不可欠であり、その抑止力・対処力の強化に当たり、日米共同訓練は重要な役割を果たしている。自衛隊は、各軍種間の共同訓練や日米共同統合演習（実動演習及び指揮所演習）を着実に積み重ねており、自衛隊の戦術技量の向上や米軍との連携の強化などを図るとともに、地域の平和と安定に向けた日米の一致した意思や能力を示してきた。

(1) 統合による日米共同訓練

自衛隊は、1986年以来、武力攻撃事態などにおける自衛隊の運用要領及び日米共同対処要領を演練し、自衛隊の即応性と日米の相互運用性の向上を図るため、日米共同統合演習（キーン・ソード（実動演習）、キーン・エッジ（指揮所演習））を実施している。2021年度においては、2022年1月から2月にかけて、令和3年度日米共同統合演習（指揮所演習）を実施し、わが国の防衛のための日米共同対処及び自衛隊の統合運用にかかる指揮・幕僚活動を演練した。

このほか、日米共同統合防空・ミサイル防衛訓練を実施して日米共同による弾道ミサイルへの対処を含む総合ミサイル防空にかかる自衛隊の統合運用能力及び日米共同対処能力の維持・向上を図っている。

(2) 各自衛隊の日米共同訓練

ア　陸上自衛隊

陸自は、日米陸軍種間で最大規模の指揮所演習である日米共同方面隊指揮所演習（ヤマサクラ（YS））や、米陸軍や米海兵隊との実動訓練を継続的に実施することにより、日米共同対処などの実効性の向上や領域横断作戦能力の向上を図り、日米同盟の抑止力・対処力を強化している。

【日米共同方面隊指揮所演習（YS-81）】

2021年12月、陸自及び米陸上部隊は、日米共同方面隊指揮所演習（YS-81）を実施した。本演習は、従来の戦闘領域に宇宙、サイバー及び電磁波といった新領域を加えた自衛隊の領域横断作戦と米陸軍のマルチ・ドメイン・オペレーションを踏まえた日米の連携能力向上を目的とした、日米陸軍種間で最大規模の日米共同指揮所演習であった。

【オリエント・シールド21（米陸軍との実動訓練）】

2021年6月から7月にかけて、陸自中部方面隊などは、在日米軍司令部などとの実動演習（オリエント・シールド21）を実施した。本訓練は、日米の各陸上部隊が共同して作戦を実施する場合における相互連携要領を演練するものであり、国内において陸自と米陸軍が実施する実動訓練として最大規模のものである。本訓練では、米陸軍ペトリオット部隊が奄美大島に初展開し、陸自中距離地対空誘導弾と共同対空戦闘訓練を実施した。さらに、米陸軍高機動ロケット砲システム（HIMARS）と陸自多連装ロケットシステム（MLRS）を使用して、矢臼別演習場において初の共同火力戦闘訓練（実射）を実施したことを通じ、日米の共同火力発揮能力の向上を図った。

日米共同方面隊指揮所演習（ヤマサクラ）を視察する岩本政務官

また、中部方面隊と米陸軍第40歩兵師団が、日米共同方面隊指揮所演習（YS-81）を見据え、共同ターゲティングを演練するなど、自衛隊の領域横断作戦と陸軍のマルチ・ドメイン・オペレーションを踏まえた日米の連携能力向上を図った。

【米陸軍との共同降下訓練】

2021年7月、陸自はグアム島アンダーセン米空軍基地などにおいて、米陸軍との共同降下訓練（実動訓練）を実施した。これは、固定翼機からの空挺降下及びそれに引き続く降着戦闘から地上戦闘までの一連の行動を日米共同で演練し、即応性の強化及び空挺作戦にかかる日米の高い共同作戦遂行能力の更なる向上を企図したものであった。陸自第1空挺団などが参加したこの訓練は、日本からグアム島に直接飛行して日米共同で空挺降下を初めて行ったものであり、共同で作戦計画を作成するなど、陸自の即応性の強化及び空挺作戦にかかる日米の高い共同作戦遂行能力を向上させた。この訓練は、2021年3月の日米防衛相会談において「日米共同訓練を含む各種の高度な訓練の実施などを通じ、即応性を強化していくことが重要」との認識で一致したことを踏まえ、実施された。

【レゾリュート・ドラゴン（米海兵隊との実動訓練）】

2021年12月、陸自東北方面隊は、米海兵隊との実動訓練（レゾリュート・ドラゴン21）を実施した。本訓練は、国内における米海兵隊との最大規模の実動訓練であり、玉城寺原演習場、矢臼別演習場などの複数の演習場を使用し、空中機動作戦にかかる訓練、攻撃ヘリコプターAHによる射撃訓練、対艦戦闘訓練を含む陸自地対艦ミサイル（SSM）部隊と米海兵隊高機動ロケット砲システム（HIMARS）部隊による火力戦闘訓練などを実施し、陸自の領域横断作戦と米海兵隊の機動展開前進基地作戦を踏まえた日米の連携能力の向上を図った。

イ　海上自衛隊

海自は伝統的に米海軍と精力的に共同訓練を実

施してきており、艦艇や航空機による日米共同訓練、対潜特別訓練、掃海特別訓練、衛生特別訓練、日米衛生共同訓練を通じ、日米共同対処などの実効性や領域横断作戦能力の向上を図っている。

例えば、米国の空母打撃群との共同訓練を着実に積み重ね、日米同盟の抑止力・対処力を不断に強化するとともに、日米がともに行動している姿を示している。

ウ　航空自衛隊

空自は、1996年以来参加している米空軍演習（レッド・フラッグ・アラスカ）や1999年以来実施しているグアムにおける共同訓練（コープ・ノース）などにおける米空軍との共同訓練を通じ、日米同盟の抑止力・対処力を強化している。それに加え、米海軍や米海兵隊との対戦闘機戦闘訓練、要撃戦闘訓練、防空戦闘訓練、戦術攻撃訓練、空中給油訓練、捜索救難訓練、編隊航法訓練などの各種日米共同訓練により、日米共同対処などの実効性の向上や領域横断作戦能力の向上を図っている。

【日米共同訓練】

2021年12月、空自F-15戦闘機及びF-2戦闘機は、日本海上の空域において、米空軍B-52爆撃機及びF-35A戦闘機との編隊航法訓練を実施し、各種戦術技量、日米共同対処能力の向上を図った。

こうした訓練のほかにも、例えば、2021年11月、空自U-125A救難機及びUH-60J救難機が、宮古島・石垣島北方の海空域において、米空軍のCV-22及びMC-130Jと捜索救難訓練を実施した。これは、島嶼部周辺を含めいかなる場所でも人命の救難を可能なものとし、ひいては日米同盟の抑止力・対処力を強化するものである。

【レッド・フラッグ・アラスカ】

2021年6月、空自は、米空軍が主催する大規模な訓練であるレッド・フラッグ・アラスカに、部隊の戦術技量及び日米共同対処能力の向上を図るため参加した。本演習においては、米国アラスカ州において、空自の戦闘機及び早期警戒管制機が、米空軍との間で防空戦闘訓練、戦術攻撃訓練、対戦闘機戦闘訓練、空中給油訓練といった多岐にわたる高度な訓練を実施した。

【陸自ホーク・中SAM部隊実射訓練及び空自高射部隊実弾射撃訓練】

2021年8月から11月にかけて、陸自高射特科部隊及び空自高射部隊が、米国ニューメキシコ州マクレガー射場において、地対空誘導弾の実弾射撃訓練を実施した。本訓練の目的は、米国において地対空誘導弾の射撃準備から実射までの一連の行動を訓練し、任務遂行能力の向上を図ることである。特色として、今回初めて、陸自中SAM部隊と空自ペトリオット部隊が連携して複数標的に対する射撃訓練を実施するとともに、空自ペトリオット部隊と米陸軍高射部隊が連携した射撃訓練も実施した。

3　第三国を交えた実践的な多国間共同訓練

各自衛隊は、米国との二国間共同訓練のみならず、第三国の参加も得たハイレベルな多国間共同訓練に積極的に取り組んでいる。豪州や欧州諸国の軍隊を交えた着上陸作戦や海上作戦、航空作戦などにかかる訓練の実施を通じ、自衛隊の戦術技量の向上を図るとともに、各国軍隊との連携及び相互運用性を高め、わが国の抑止力・対処力を強化している。

【ARC21（日米豪仏共同訓練）】

2021年5月、陸自、海自及び空自は、フランス軍の練習艦隊「ジャンヌ・ダルク」が佐世保に寄港する機会を捉え、日米豪仏共同訓練（ARC21（アーク21））を実施した。

フランス陸軍と国内で実施した初めての訓練であり、陸上においては、陸自水陸機動団などがフランス陸軍、米海兵隊とともに、相浦駐屯地、霧島演習場及び九州西方海空域において各種訓練を実施し、空中機動、陸上作戦などの水陸両用作戦にかかる戦術技量を向上させるとともに、参加国との連携を強化した。

海上においては、海自イージス護衛艦「あしがら」をはじめとする水上艦艇、哨戒機及び潜水艦が米軍ドック型輸送揚陸艦「ニューオーリンズ」など、豪軍フリゲート「パラマッタ」及びフランス軍強襲揚陸艦「トネール」をはじめとする艦艇と共同にて防空

訓練、対潜訓練及び着上陸訓練を実施した。この中で、空自F-2が海自部隊と協同して訓練を実施した。

【タリスマン・セイバー21】

陸自及び海自は2021年6月から8月にかけて、米豪主催多国間共同訓練（タリスマン・セイバー21）に参加した。陸自水陸機動団は米海兵隊、豪陸軍及び英海兵隊と初めて4か国で実動訓練を実施し、部隊の水陸両用作戦にかかる戦術技量の向上及び4か国の連携強化を図った。

海自は、護衛艦「まきなみ」及び搭載航空機が米海軍強襲揚陸艦、豪海軍強襲揚陸艦、カナダ海軍フリゲート及び韓国海軍駆逐艦などとオーストラリア東方海域において実弾発射を含む射撃訓練、対潜戦訓練及び海上作戦訓練を実施し、各種戦術技量を向上させるとともに、参加各国との連携を強化した。

【海上自衛隊演習】

2021年11月、海自は、わが国周辺海空域において、令和3年度海上自衛隊演習（実動演習）を実施した。この演習は、海上自衛隊創設以来、ほぼ隔年で実施している海上自衛隊最大規模の実動演習であり、2021年度は、海上自衛隊の護衛艦「いずも」など艦艇約20隻及び航空機約40機が参加した。また、本演習には、米海軍から空母「カール・ヴィンソン」など約10隻、豪海軍艦艇「ワラマンガ」や「ブリスベン」、カナダ海軍艦艇「ウィニペグ」が参加したほか、欧州諸国から初参加となるドイツ海軍のフリゲート「バイエルン」も参加し、日米豪加独5か国の艦艇が集結することとなった。本演習を通じ、海上自衛隊の任務遂行能力の向上のみならず、米海軍との共同対処能力及び相互運用性の向上、豪州・カナダ・ドイツ海軍との連携強化が図られた。

【コープ・ノース22】

空自は、「自由で開かれたインド太平洋」の維持・強化に資するため、1999年以降実施しているグアムを拠点とする共同訓練「コープ・ノース22」における日米豪共同訓練及び人道支援・災害救援共同訓練を実施した。前者では、実戦的環境のもと、防空戦闘訓練、戦術攻撃訓練、空対地射爆撃訓練、捜索救難訓練及び機動展開訓練をはじめとする各種の訓練を実施した。また今年は、海上自衛隊からUS-2救難機が参加した。本訓練において、部隊の戦術技量、日米共同対処能力及び参加国間の相互運用性の向上を図った。

また、後者は、人道支援・災害救援活動にかかる多国間共同訓練であり、今年は日米豪に加え、インド太平洋地域に常続的な軍事プレゼンスを有する唯一のEU加盟国であるフランスが参加した。本訓練においては、機動展開訓練、航空患者搬送訓練及び捜索救難訓練をはじめとする各種訓練を実施し、人道支援・災害救援活動にかかる部隊の能力及び参加国との連携要領の向上を図った。

米豪英軍と連携した着上陸作戦

射撃訓練中の護衛艦

VOICE コープ・ノース22参加者の声

航空救難団飛行群秋田救難隊（秋田県秋田市）
副隊長　2等空佐　加納（かのう）　洋秋（ひろあき）

私は、救難機訓練隊の隊長として、1か月強の期間、アメリカ合衆国グアム島において実施されたコープ・ノース22に参加しました。本訓練では、部隊の戦術的技量及び参加国間の相互運用性の向上を目的とした日米豪共同訓練と、人道支援・災害救援（HA/DR）訓練の2つが実施され、救難機訓練隊は、その両方の訓練に参加しました。参加した救難機は、U-125A捜索機及びUH-60J救助機それぞれ1機で、各種救難活動に関する訓練を実施しました。

特に本年はUH-60JがC-2輸送機により空輸され、初めて海外訓練に参加しました。その実現には様々な苦労があり、UH-60Jを分解してC-2に搭載し、グアム到着後は南国の炎天下、整備員が暑さに負けず機体の組立て作業を実施しました。

コープ・ノース22では、訓練の計画段階から日米豪の関係者が綿密に連携し、過去の教訓や最新の安全保障に関する情報を計画に反映させ、より実相に則した訓練、かつ効果的な訓練となるよう努力しました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響による困難もありました。HA/DR訓練においては、豪軍人を模擬遭難者としてUH-60Jに搭乗させる状況がありましたが、「感染しない、させない」ことを全員が徹底して訓練に臨みました。

こうした各種努力を各国が一丸となり継続することで、参加国間の連携強化をより一層図ることができたと思います。引き続き、わが国の平和と地域の安定化のため、日々の訓練及び任務に真摯に取り組んでいくとともに、対面により実施できる数少ない訓練機会を最大限に活用し、各国との連携を深めていきたいと考えます。

U－125A捜索機がアンダーセン空軍基地に着陸後の出迎え
（筆者：右側）

エレファント・ウォークの様子
（UH－60J：先頭、U－125A：3機目）

2 インド太平洋地域でのパートナーシップ強化のための訓練

自国の平和を維持するためには、抑止力・対処力を強化しつつ、自国を取り巻く安全保障環境の安定化が不可欠である。そのため、防衛省・自衛隊は、「自由で開かれたインド太平洋」というビジョンに向けた取組として、広くインド太平洋地域において同盟国・友好国との共同訓練を積極的に推進しており、わが国の安全保障と密接な関係を有するインド太平洋地域におけるパートナーシップを強化するとともに、一国のみでは対応が困難なグローバルな安全保障上の課題や不安定要因の対応に向けた連携強化に努めている。

参照　図表Ⅳ-1-1-2（インド太平洋地域でのパートナーシップ強化のための主要訓練）

1 インド太平洋方面派遣など

(1) インド太平洋方面派遣（IPD21）

海自は2021年8月から11月にかけて、「自由で

図表Ⅳ-1-1-2 インド太平洋地域でのパートナーシップ強化のための主要訓練

開かれたインド太平洋」の実現に資するべく、インド太平洋方面派遣を実施した。これは、インド太平洋地域の各国や同地域に艦艇を派遣している欧州主要国の海軍などとの共同訓練を実施し、海自の戦術技量の向上及び各国海軍などとの連携強化を図ることを目的としており、これらの訓練を通じ、地域の平和と安定に寄与するとともに、各国との相互理解の増進及び信頼関係の強化を図るものである。

本訓練において、護衛艦「かが」、「むらさめ」、「しらぬい」及び搭載航空機は、オーストラリア、シンガポール、スリランカ、パラオ共和国、ベトナム、フィリピン及びフランス領ニューカレドニアに寄港し、各国との相互理解を深めるとともに、洋上においては、これらの国を含む各国海軍などと各種共同訓練を実施した。

例えば、一方的な現状変更が続く南シナ海においては、英空母「クイーン・エリザベス」を含む日米英蘭加新の6か国艦艇が共同巡航するなど、派遣期間中に計10回もの他国との共同訓練を実施した。

また、9月にはIPDとして初めて太平洋島嶼国地域を訪問し、パラオ共和国及びバヌアツ共和国と親善訓練を実施した。パラオ周辺においては、日本財団が寄贈した海上保安局巡視船と捜索救難訓練などを実施するとともに、バヌアツ周辺においては警察海上部隊と通信訓練を実施し、これらの国々との相互理解の促進を図った。

さらに、10月に実施した日米豪英共同訓練(Maritime Partnership Exercise)では、4か国の艦艇、航空機がベンガル湾において対抗戦、防空戦、対水上射撃などを実施し、海上自衛隊の戦術技量の向上や4か国間の連携強化を図った。11月には、潜水艦を含む海自部隊が米海軍駆逐艦及び哨戒機と南

シナ海において対潜訓練を実施したが、海自潜水艦が南シナ海で対潜訓練を実施するのは初のことであった。

IPDは、「自由で開かれたインド太平洋」を実現するという防衛省・自衛隊のコミットメントを示す象徴的な取組であり、引き続き、関係国と緊密に連携しながら、本取組を継続していく。

(2) インド太平洋・中東方面派遣（IMED21）

海自は、2021年12月から2022年4月にかけて、インド太平洋・中東方面に掃海母艦「うらが」及び掃海艦「ひらど」を派遣し、ブルネイ、バングラデシュ、スリランカ、バーレーン、カンボジア及びマレーシアに寄港しつつ、これらの国を含む各国海軍などと機雷戦訓練などを実施した。12月には、日ブルネイ防衛相会談の前日に日ブルネイ親善訓練を、「日本・南西アジア交流年」に当たる2022年に入ってからは、1月に日バングラデシュ親善訓練、日印共同訓練、日スリランカ親善訓練を実施したほか、1月から2月までの間、バーレーン周辺海空域で実施された米国主催国際海上訓練に参加した。その後の日本への帰路においても、これらの国の海軍などとの訓練を通じ、この地域の安定と繁栄に深くコミットしていくというわが国の意思を示した。

VOICE　令和3年度インド太平洋方面派遣（INDO-PACIFIC DEPLOYMENT 2021：IPD21）護衛艦部隊指揮官の声

第3護衛隊群司令部（京都府舞鶴市）
群司令　海将補　　池内（いけうち）　出（いずる）

私は、IPD21護衛艦部隊指揮官として、護衛艦「かが」、「むらさめ」、「しらぬい」の3艦をもって、2021年8月から11月までの約3か月にわたり、西太平洋からインド西方に至る広大な海域で活動し、計14か国と延べ21回にわたる共同・親善訓練を実施しました。

IPD21は、「『自由で開かれたインド太平洋』の実現に資するべく、インド太平洋地域の各国や欧州各国の海軍などとの共同訓練を実施し、海上自衛隊の戦術技量の向上及び各国海軍などとの連携の強化を図り、地域の平和と安定への寄与を図るとともに、各国との相互理解の増進及び信頼関係の強化を図ること」を目的とした活動であり、今回で5回目を数えます。

IPD21では、米海軍をはじめ、アジア太平洋地域にはじめて展開した英空母クイーンエリザベスを旗艦とする艦隊など欧州各国海軍などとの共同訓練のほか、IPD部隊として初めてパラオ、バヌアツといった太平洋島嶼国との親善訓練も実施しました。乗員一人ひとりが本派遣の重要性を理解し、様々な工夫をしつつ臨んだ結果、無事に任務を完遂できました。本派遣を通じてインド太平洋地域の平和と安定へ寄与できたことを誇りに思っています。

各国海軍との訓練状況

部隊を指揮する筆者

2 2021年度のインド太平洋地域における各国との主要な共同訓練

2021年度、防衛省・自衛隊は、インド太平洋地域において様々な二国間・多国間共同訓練を実施した。例えば、米インド太平洋軍が主催した多国間共同訓練LSGE21（米国主催大規模広域訓練）に参加したほか、英・仏・独などの欧州諸国がインド太平洋地域に艦艇を派遣する機会を捉え、これらの国々の海軍との共同訓練を積極的に実施した。また、マラバール2021をはじめ、日米印豪を含む多国間共同訓練にも参加し、これら4か国の連携を強化した。このようなインド太平洋地域において実施した共同訓練は、「自由で開かれたインド太平洋」の実現のために重要であり、今後とも各国とのパートナーシップを強化するべく積極的に実施することとしている。

(1) LSGE21（米国主催大規模広域訓練）

LSGE21（Large-Scale Global Exercise 2021、米国主催大規模広域訓練2021）は、2021年8月に実施した米インド太平洋軍主催の大規模訓練である。前段は海自護衛艦「まきなみ」、米軍及び豪軍の強襲揚陸艦などが参加し、日米豪3か国による共同訓練として、珊瑚海からフィリピン東方に至る海空域において海上作戦訓練を実施した。

後段は陸自水陸機動団、海自護衛艦「いせ」、「あさひ」、空自F-15戦闘機、米軍強襲揚陸艦、英空母「クイーン・エリザベス」及びオランダ軍フリゲートなどが参加し、日米英蘭4カ国の共同訓練として、沖縄南方海空域において航空作戦訓練を実施した。

このような広大な海域などを活用した多国間共同での各種戦術訓練の実施を通じ、自衛隊の戦術技量の向上及び参加国軍との連携の強化を図るとともに、基本的価値と戦略的利益を共有する国々とともに、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けて共同している姿を発信した。

(2) パシフィック・クラウン21（日英米蘭加共同訓練）

海自及び空自は、英空母「クイーン・エリザベス」を中心とした英・米・蘭海軍で構成される英空母打撃群がわが国に寄港する機会を捉え、2021年8月から9月にかけて、九州南方から関東東方の広範にわたる海域において、「パシフィック・クラウン21」と題する一連の共同訓練を実施した。海自は「いずも」をはじめとする護衛艦に加え、潜水艦及びP-1哨戒機を、空自はF-35Aをはじめとする戦闘機及びE-767早期警戒管制機を参加させ、英海軍の空母「クイーン・エリザベス」をはじめとする艦艇及び英空軍のF-35B戦闘機、米海軍の駆逐艦及び米海兵隊のF-35B戦闘機、その他の参加国の艦艇と、対抗戦、防空戦、対潜戦などを実施し、各種戦術技量を向上させるとともに、参加国海軍及び空軍との連携を強化した。

海自は、本訓練に加え、英空母「クイーン・エリザベス」と、10回にわたって多国間共同訓練を実施しているほか、空自も第5世代戦闘機による初の日英米での共同訓練を実施し、これら一連の訓練を通じ、日英の防衛協力が新たな段階に入ったことを具現化するとともに、英国の関与が強固かつ不可逆的であり、日英防衛協力がわが国の安全保障のみならず、インド太平洋地域と国際社会の平和と安定の確保に資するものであることを示した。

(3) 米英空母3隻との日米英蘭加新共同訓練

2021年10月、海自は、米海軍、英海軍、オランダ海軍、カナダ海軍及びニュージーランド海軍と沖縄南西海空域において共同訓練を実施した。

総勢17隻の艦艇及び複数の航空機により実施されたこの訓練には、米空母「ロナルド・レーガン」、「カール・ヴィンソン」及び英空母「クイーン・エリザベス」も参加し、大規模な各種対抗戦、防空戦、対潜戦、戦術運動などが実施された。海自が空母3隻

動画：PACIFIC CROWN21
URL：https://youtu.be/F-cR35rhn5M

と訓練するのは、2017年以来約4年ぶりのことであり、この機会を活用し各種戦術技量を向上させるとともに、参加各国との連携を強化した。3隻の空母を含む多くの艦艇が共同訓練に参加したことは、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けた各国の連携を象徴するものとなった。

(4) ラ・ペルーズ21（日仏米豪印共同訓練）

2021年4月、海自は日仏米豪印共同訓練「ラ・ペルーズ21」に参加した。「ラ・ペルーズ」はフランス主催の海軍種による多国間共同訓練であり、2019年に日仏米豪4か国で初めて開催されたが、今回の訓練では、インドが初めて参加し、ベンガル湾において、海自は仏・米・豪・印海軍艦艇とともに海上作戦を遂行する上で重要な訓練を実施した。ベンガル湾はインド太平洋の主要海域の1つであり、本訓練を通じ、「自由で開かれたインド太平洋」の実現を進めていくというわが国の意志を具現化するとともに、民主主義や法の支配といった基本的価値を共有する日仏米豪印5か国の連携・結束を内外に示した。

(5) マラバール2021（日米印豪共同訓練）

2021年8月から10月に、海自は「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けて連携を強化すべく、日米印豪共同訓練「マラバール2021」を実施した。この訓練は、それぞれの段階においてグアム島周辺、西太平洋（フィリピン海）及びベンガル湾と広いエリアにて実施され、海自護衛艦、哨戒機、潜水艦及び特別警備隊、空母を含む米海軍艦艇及び航空機、インド海軍艦艇及び海軍特殊作戦部隊など並びに豪海軍艦艇が参加し、対潜戦訓練、防空戦訓練、対水上訓練射撃、洋上補給訓練などを実施した。

本訓練において、「自由で開かれたインド太平洋」の実現という4か国の一致した意思を具現化するとともに、民主主義や法の支配といった基本的価値を共有する4か国の連携・結束を内外に示した。

(6) 日独共同訓練

海自は2021年度、インド太平洋地域に派遣されたドイツ海軍フリゲート「バイエルン」と6回にわたり共同訓練を実施した。特に、ドイツ海軍艦艇としては20年ぶりとなるわが国への寄港の機会を捉えた11月の訓練においては各種戦術訓練を実施し、海自の戦術技量の向上とドイツ海軍との連携を強化した。

(7) カマンダグ21（フィリピンとの共同訓練）

陸自は、2021年9月から10月にかけて、フィリピンにて実施された米比共同訓練「カマンダグ21」に参加した。陸自水陸機動団がフィリピン海兵隊との間で実施した本訓練においては、人命救助システムを活用した災害救助活動、患者後送などを実施した。本訓練を通じて、人道支援・災害救援にかかる自衛隊の戦術技量の向上が図られるとともに、自衛隊とフィリピン軍の連携が強化された。

(8) ミクロネシア連邦等における人道支援・災害救援共同訓練（クリスマス・ドロップ）

2021年12月、空自は人道支援・災害救援にかかる能力の向上などを目的とし、米空軍が実施するミクロネシア連邦等における人道支援・災害救援訓練（クリスマス・ドロップ）に参加した。空自からはC-130H輸送機が参加し、アンダーセン米空軍基地、パラオ共和国及びミクロネシア連邦並びにこれらの周辺で、米軍が収集した日用品などの寄付物資を用いて海上への物料投下訓練を実施し、空自の人道支援・災害救援能力の向上及び参加各国との連携の強化を図った。

(9) 日比人道支援・災害救援共同訓練

2021年7月、空自は人道支援・災害救援活動にかかる能力の向上などを目的とし、フィリピン空軍との共同訓練を実施し、航空自衛隊の人道支援・災害救援能力の向上及びフィリピン空軍との連携の強化を図った。この訓練は、フィリピン・クラーク空軍基地にて実施され、空自からはC-130H輸送機が参加した。この訓練は、空自とフィリピン空軍間における初の二国間共同訓練であり、地域の安定のため、今後も継続して実施することとしている。

3 その他の訓練

自衛隊は、わが国の防衛のみならず、自然災害への対応など様々な任務に対応できるよう日々訓練を行っている。

1 防災訓練

自衛隊は、大規模災害など各種の災害に迅速かつ的確に対応するため、各種の防災訓練を実施しているほか、国や地方公共団体などが行う防災訓練にも積極的に参加し、各省庁や地方公共団体などの関係機関との連携強化を図っている。

ア 自衛隊統合防災演習（JXR）

Joint Exercise for Rescue

自衛隊は、大規模震災が発生した場合における自衛隊の指揮幕僚活動、主要部隊間の連携要領、防災関係機関などとの連携に関する防災訓練を行うことで、災害対処能力の維持・向上を図っている。2021年5月には、東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催中に首都直下地震が発生した場合を想定して訓練を実施し、東京オリンピック・パラリンピックの成功に万全を期した。

イ 日米共同統合防災訓練（TREX）

Tomodachi Rescue Exercise

2022年2月、南海トラフ地震発生時における在日米軍との共同対処を実動により実施し、自衛隊と在日米軍との連携による震災対処能力の維持・向上を図った。

ウ 離島統合防災訓練（RIDEX）

Remote Island Disaster Relief Exercise

2021年11月、離島における突発的な大規模災害への対処について実動により訓練し、自衛隊の離島災害対処能力の維持・向上及び米軍・関係防災機関などとの連携の強化を図った。

エ 大規模地震時医療活動訓練

2021年10月、内閣府が主催する大規模地震時医療活動訓練に参加し、災害派遣時の各種行動及び防災関係機関との連携要領を演練し、災害対処能力の維持・向上を図った。

2 在外邦人等の保護措置に関する訓練

海外における緊急事態において、在外邦人等を速やかに保護できるよう、その能力を平素から維持しておくことは重要であり、自衛隊は、そのための訓練を実施してきている。例えば、2020年11月から12月にかけては、在外邦人等保護措置にかかる統合運用能力の向上及び自衛隊と関係機関との連携強化を図る目的で、統幕、陸上総隊、陸自東部方面隊、警務隊、航空総隊、航空支援集団、航空教育集団、空自補給本部などの人員約300名が関係省庁との調整・連携を行いつつ、実動訓練を実施した。